

「鳥取の小学校体育に望むこと」

講師 県教委 体育保健課 生田優介氏

昨年度 中四国大会、ダンスムーブメントセミナーの成功



更なる研究推進、当たり前の実践へ
鳥取の体育の充実を

【豊かな生活を送るための基礎を培うために必要な見直し】

- ・体力の向上を図る。
- ・運動する子としない子の二極化等の課題を解決する。
- ・体育、健康に関する指導のさらなる充実を図る。
- ・生活習慣や栄養摂取の改善を含め、健康を増進し、豊かな生活を送るための基礎を培う。

【今 考えるべきこと】

- ・現行の指導要領の趣旨に沿った学習の展開・充実の精度を高める。
- ・どの子にも運動する喜びがある。
- ・どの学校にも、どの先生でも実践されている。

【全国学力・学習状況調査（鳥取県）の結果から】

- ・授業で話し合い活動をよく行っている⇒9割が肯定的な回答
- ・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている⇒7割が肯定的な回答

※話し合う場面はあるが、話し合いを通して考えが深まったと感じている児童が少ない。

言語活動は目的ではなく、手段である。

【運動嫌いになる要因】

- ・成功体験ではなく、失敗体験の積み重ね ←手立てが不十分
- ・スポーツそのままでは、多くの子にとって難しい
- ・できない子が参加できないまま終わってしまう

【学習指導要領の趣旨に基づいた授業作り】

- ・運動に親しむ資質や能力が身につけていないと、運動の特性に応じた楽しさを味わうことは難しい。
- ・何を身につけさせたいのかを明確にする。 ⇒ 学習内容や手立てが変わってくる。
- ・様々な楽しさを味わうことで、またやりたい・もっとやりたいと思う子が出てくる。

【言語活動】⇒手段

- ・どの段階で取り入れるか、どこで充実させるかを計画しておく。
- ・全員の前で発表することにこだわる必要はない。
- ・言語活動を手立てとし、指導の充実を図っていく。

【ICTの活用】

- ・課題をつかむことができる。
- ・目標とする動きの具体化ができる。
- ・動きや課題の共有化ができる。

※常に意識させておきたいことは、紙媒体で掲示しておくことが有効

ICTを活用することで、動きがわかり、意欲的に取り組んでいく子を育てる。
何のために使うのか、子どもがどう変容したかをみていく。

【指導と評価】

- ・指導した技能が身についたかを評価していくことが重要。
- ・タイムのみ、量のための評価では不十分 ⇒ タイムはもともとの走力という要素が大きく関与している。
- ・タイムは子どもが自分自身の伸びを実感するために有効である。

【保健学習】

- ・子どもたちが大切さを実感し、自分で考えて行動できることが大切。
- ・関心・意欲・態度⇒学習活動に意欲的かを評価する。
- ・思考・判断⇒評価規準には表現することを必ず入れる。
- ・知識・理解⇒習得すべき内容を身につけているかを評価する。

【体力・運動能力、運動習慣等調査】

- ・男子8学年、女子9学年が前年度の数値を上回っている⇒日々の積み上げの成果
- ・長座体前屈⇒全国平均は向上傾向だが、鳥取県は低下傾向…県としての課題
- ・学習に対して肯定的な集団ほど、体力合計点が高い。
⇒楽しくない、できなかったと感じる子を減らしていきたい
- ・運動能力の高い子が楽しい、できたと思える授業になっていないか。

- ・表現運動の満足感が男女とも低い。←指導者が指導しにくいと思っている領域と一致する。
- ・表現運動の充実を図っていく必要がある。
- ・運動嫌いは幼児期から始まっている。⇒幼児期に遊びを通して楽しさを感じられるようにしていく必要がある。
- ・1日60分以上の運動習慣が目安―体力合計点が全国平均値を上回る傾向がある。

【これからの体育学習】

- ・日常の運動習慣が体力の向上に重要である。
⇒体力テストの数値をあげるのではなく、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。
- ・学習の中で、できた・楽しかった・またやりたいと思えるようにしていく。
- ・どの先生でも実践していけるように、学習の展開・充実を図っていく。

【質疑応答】

- ・ICT活用の有効な場面はどんなものがあるか。
- ・防水機能のあるカメラで水中での足の動きを撮る。
- ・器械運動⇒連射機能
※台数が少ないため、ICTを有効に活用できないことが多い。
- ・県外視察で…2人に1台、なわとび学習
めざす姿の動画が取り込んであり、いつでも見ることができていた。
自分達の動きを撮り、確かめることができていた。